

「わたしたちの県」って どんな県？

山梨大学教育人間科学部附属小学校 久保田 勲

1. はじめに

中学年では、県内における産業や地形条件からみた特色ある地域の人々の生活について学習する。その学習でいかに地図帳を有効活用していくか紹介する。

地図には、県内のようにすについて、さまざまな情報が記されている。地図帳を使ったゲームやクイズを取り入れることで、子どもたちが楽しみながら「わたしたちの県」の特色をつかむことができるように工夫したい。

2. 訪ねてみたいな！～「すごろく」をつくろう～

「わたしたちの県」の学習のオリエンテーションで地図帳を活用する。

地図帳には、地名の他に地形や産物、環境、歴史などに関する内容が記号として盛り込まれている（地図帳p.7参照）。まず、自分たちの県を具体的に概観できるページ（山梨についてはp.35）を開いてみて、目に飛び込んできた記号にはなにがあるかピックアップする。



身延線にそって、
水晶とハンコと和紙
の里を訪ねるコース
づくりをしたいね

次に、「記号の地域を訪ね歩く『すごろく』をつくろう！」となげかける。訪ねるためには、自分たちの住むまちから、どのようなルートをたどればよいか、地図から読みとっていく。それにより自分たちのまちとその地域との位置関係をおさえることができる。また、「特産品めぐり」のようにテーマを決めてコースづくりを行うことで、以後の学習効果を高めたい。

— 特産品めぐり —

産物記号に目を向けて、産業条件からみた特色ある地域を訪ねるコースをつくってみる。

— 大自然の旅 —

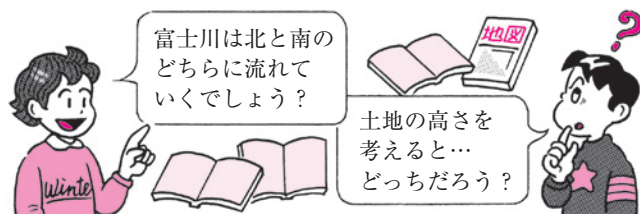
地形記号に目を向けて、地形条件からみた特色ある地域を訪ねるコースをつくってみる。

学習の導入段階であることを考慮して、あくまで地図帳から読み取ることが可能な内容でコースづくりを行うようにしたい。

3. 山梨って、どんな県？～「クイズ集」をつくろう～

学習の後半では、県内のようにすについて調べてきたことをクイズ形式にまとめてみたい。地図帳を活用して、そこから読みとった内容も含めて、クイズづくりを行いたい。

ここでは、川が流れていく方位や、土地の縦断面の形状などをたずねる問いを子どもたちが用意できるように支援する。これらのクイズを通して、地図帳を立体的に見る力が高まってきているか確認する。



富士川は北と南の
どちらに流れて
いくでしょう？

土地の高さを
考えると…
どっちだろう？

4. おわりに

「わたしたちの県」の学習を通して身につけた地図帳の活用方法を、日本全国や外国を調べたりするときに応用・転移できるように、つねに地図帳をかたわらに置いて社会科学習をすすめていきたい。